

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
推進校実施報告書

- 1 学校名：広島県立三次高等学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年10月24日（水）13：55-15：55
- 3 対象：講演 生徒600名（全校）、実技指導 生徒50名（陸上部所属の生徒等）
- 4 派遣パラリンピアン：芦田 創 さん  
（男子パラ陸上競技 幅跳び リオデジャネイロ大会銅メダル）
- 5 授業内容：講演、実技

2018（平成30）年10月24日（水）に、広島県立三次高等学校にて、障害者陸上・幅跳びの芦田創さんの講演と実技体験が行われました。

芦田さんの講演に先立って、全クラスで芦田さんのプロフィールが掲載されたプリントが配布されました。また、今回の実践はキャリア教育と関連付けて行われたため、生徒は「心のキャリアノート」を記入しながら聴講しました。

「目標の大切さ」というテーマで行われた講演において、芦田さんは、自身の半生を、陸上を始めるまで、パラリンピックを目指すようになるまで、そしてパラリンピックを目指して出場に至るまでの3期に区分して振り返りながら、人生を生きていくうえで重要だと考えるポイントについてお話されました。

スポーツ好きの両親の元に生まれた芦田さんは、5歳のときに父親とキャッチボールの練習をしたが、なかなかうまく投げることができませんでした。そして、病院に行つて肘の骨の検査を受けたことで自身の病気が見つかりました。治療と再発を繰り返し、結果的に約10年間の闘病生活を送りました。そのため、学校にも十分に通えず、体育や部活動などの運動経験も積むことができませんでした。このような闘病生活の中で、ますますスポーツをしたい、という気持ちが増幅していきました。しかし、15歳のときに転機が訪れました。医師から、10年近く治療をしてきたがもう治療の方法がないから腕を切断しよう、という診断を受けたのです。そこで芦田さんは、どうせ腕がなくなるなら、これまでずっと憧れていた陸上を思いっきりやろうと思いつきました。そして、実際に全力で走ったところ、何とこれまでなかなか治らなかった病気が治ってしまいました。

このように病気を克服した芦田さんは、高校で陸上部に所属しました。しかし、本格的に陸上を始めたことで大きな葛藤を経験することになりました。普段の部活動では、健常者の友人達と一緒に練習をしました。すると、人よりもうまくなりた、早くなりたと思えば思うほど、周囲の健常者の友人達との差が顕在化してしまつたのです。ここで、初めて障害を恨むようになりしました。そこで、芦田さんは障害者スポーツの大会に出場を試みました。すると、日本記録で優勝をしてしまいました。これらの経験の結果、芦田さんは、健常者と競うと自らの障害に由来する限界が見えてしまう、しかし障害者の中では競い合う相手がいない、という葛藤に苛まれてしまいました。そこで、大学進学後は、競争以外の陸上との関わり方を模索するために、競技から離れ、陸上を楽しもうと心掛けました。

しかし、大学4年生の就職活動で、改めて自分自身の人生を振り返ったときに、自身の障害を武器にしてオン

リーワンの存在になりたいと思うようになりました。さらに、そのタイミングで後に恩師となる先生に「障害に甘えている」ということを指摘されて目が覚めました。ここから、自らの障害に対する甘えを払拭するために、本格的にパラリンピックで金メダルを獲得することを目指すようになりました。

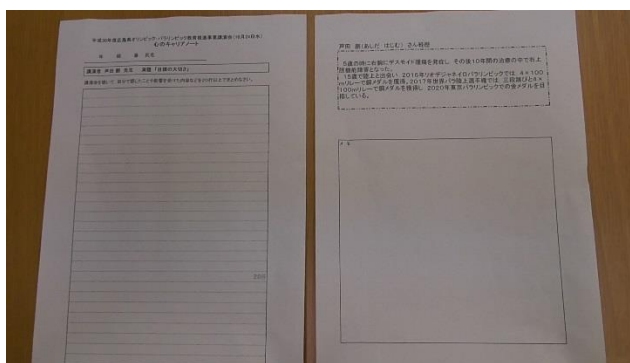
このような経験を振り返りながら、芦田さんは、好きなことを持っていることはエネルギーになるから大切にしたいほうがよい、人生の主人公は自分でしかないから自分の物語を楽しくするように努めてほしい、そのためには目標をもってチャレンジすることが大切である、ということを生徒達に伝えられました。講演の最後には、芦田さんが作成した自身の競技する様子をまとめた映像を観覧しました。

講演後には、陸上部を中心とした希望者を対象に走り方教室を行いました。生徒達は、少しずつ走り方が改善されている感触を得ている様子で、真剣に取り組んでいました。

## 6 授業の様子



【 講演の様子 】



【 心のキャリアノート 】



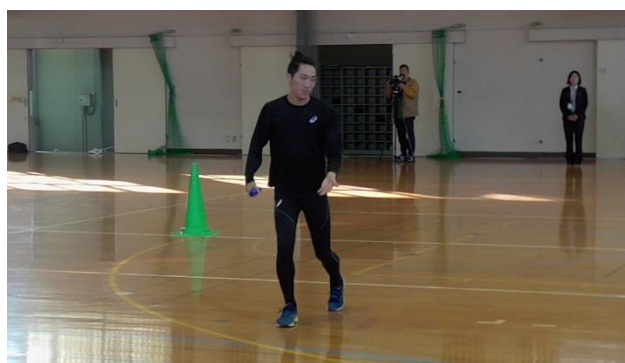
【 映像の観覧 】



【 代表生徒の挨拶 】



【 実技指導の様子① 】



【 実技指導の様子② 】